

2026年6月28日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -

(マタイによる福音書 28 : 19~20)

聖霊降臨節第6主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

〈神の招き〉

前 奏 ①詩編24(1) ノールト
②来ませ聖霊、主なる神よ ブクステフーデ

招きの詞 詩編103:1~5

交読詩編 33:4~11

讃美歌 127

〈神の言葉〉

聖 書 出エジプト記29:15~18
(旧約 聖書協会共同訳 131頁)
エフェソの信徒への手紙5:1~5
(新約 聖書協会共同訳 350頁)

祈 禱
讃美歌 482

説 教 「キリストの香りに生きる」
佐藤潤伝道師

祈 禱
黙 想
讃美歌 567

〈神への応答〉

使徒信条
献 金
主の祈り
宣教報告②
頌 栄 25

派遣と祝福
後 奏 ①あわれみたまえ シャイデマン
②来たれ創造主、聖霊よ ヴァルター

宣教報告①

サテライトチャーチ植竹礼拝 10:30~11:30

夕 礼 拝 18:00~19:00

〈神の招き〉

前 奏 神のなさることは恩恵のわざ クレプス

招きの詞 詩編103:1~5

交読詩編 33:4~11

讃美歌 7

〈神の言葉〉

聖 書 エゼキエル書34:11~14
(旧約 聖書協会共同訳 1333頁)
ヨハネによる福音書10:7~11
(新約 聖書協会共同訳 183頁)

祈 禱
讃美歌 55
説 教 「主イエスは羊の門」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃美歌 459

〈神への応答〉

使徒信条
献 金
主の祈り
宣教報告
頌 栄 24
派遣と祝福
後 奏 全能なる神をたたえん パッヘルベル

ワーシップ(賛美礼拝) 14:00~15:00

説教「主は備えてくださる」

佐藤潤伝道師

創世記22:9~14

賛美:主のまなざしの中、天の喜び、ワンボイス、
恵みと平安、主はぶどうの木、主の祈り、
主は良いお方、一緒に

次週の礼拝(7月5日) 聖餐式

① 9:00、② 10:30

説教「神の確かな約束」

熊江秀一牧師

創世記22:15~18、

ヘブライ人への手紙6:13~20

交読詩編52:1~9

讃美歌 9、56、474、78、28

夕 18:00

説教「信仰はどこにあるのか」

佐藤潤伝道師

詩編89:10~13、

ルカによる福音書8:22~25

交読詩編52:1~9

讃美歌 141、462、521、78、26

*礼拝中、起立が無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 7月の宣教の為に
4. 長老会の為に
5. 関連幼稚園（大宮、植竹、白百合）の為に
6. 関東教区と埼玉地区の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 妙高高原教会 巻祝福教会 前橋教会

◇先週の説教より「成熟を目指して」ヘブライ人への手紙5章11節～6章12節、創世記12章1～5節 熊江秀一牧師

信仰の成長、成熟が語られる。「キリストの教えの初歩を後にして」、それを土台にして成長してゆくのである。

それは乳を求める幼子から大人へと成長する姿である。洗礼を受けた時、初歩の教えという乳で養われていた幼子の信仰者が、次第に成長し、固い義の御言葉を食べて大人となる。そして今度は、救いを求める者に乳を与える者となるのである。この固い食物によって養われる「善悪を見分ける感覚」は何が神の御心であるのかを見分けることである。それは幼子の時代には味わえない恵みである。

このことは決して後回しにできないことである。「ひとたび光を照らされ」洗礼を受けて、「後に墮落した者たちは、再び悔い改めへと立ち帰ることはできません」。

「墮落」は、信仰を捨てるのみならず、信仰を持ちつつも次第に墮落することも含む。私たちはこの厳しい警告を聞かなければならない。

教会の歴史の中でも説教者たちはそれを指摘してきた。その中で怒りにあい命を落とす者もいた。彼らが命をかけて指摘した信仰の墮落とは何か。それは自分の救いや祝福ばかりを願う信仰である。中世の免罪符は最たる姿である。彼らは命をかけて指摘した。それは宗教改革となった。自分の救いや祝福という初歩の教えにとどまっていたら、信仰は墮落する。それは信仰を私物化し、主を「またもや十字架につける」こと、自分も滅びることである。

しかしこの書の目的は私たちを脅すことではなく、「愛する人たち」を信仰の成熟の恵み、救いの確信に招くことである。

それは「神の名による愛を決して忘れない」ことである。どんなに小さな愛でも、神の御手にある。「最後まで希望を持ち続ける」のである。大祭司イエスに導かれ、信仰の成熟を目指して進もう。